

ヨセフ神父・高山助祭 叙階おめでとうございました

3月20日、高松教区司教座聖堂桜町教会において、ヨセフ・ゴ・ヴァン・タイン神父とアシジのフランシスコ高山徹助祭の叙階式が行われました。教区内から600人近くが、諏訪司教式による厳粛な叙階式ミサに参列しました。

ミサ後には、四国カトリック会館において祝賀パーティーが行われ、多くの参列者で盛り上りました。



神なる主の力により

ヨセフ・ゴ・ヴァン・タイン神父

高松教区の皆さん、このたび、わたしの司祭叙階式にご参列下さって、沢山のお祈りと励ましをどうもありがとうございました。

皆様のお祈りと励ましのお陰で、3月20日高松教区のカトリック教会において、無事に司祭叙階の恵みをいただき、またその翌日にはカトリック教会で初ミサをする恵みをいただくことができました。司祭叙階の恵みをいただいてから、数日がたちましたが、「ヨセフ神父」と呼ばれると、何か別の人呼ばれているように感じ、ピンときません。

これまで20数年、志願者、神学生、また助祭の時期を過ごしてきたので、気持を切り替えるのに、まだしばらく時間がかかると思います。

新司祭が生まれるということは、わたし自身の意志と努力、祈りはもちろんですが、何より神なる主の御意志によると言えるでしょう。ですから、「神がわたしに偉大なわざを行つて下さいました」(ルカ1:49)。司祭は、特別の才能があるから司祭になれる

ということではないと思います。ただただ、本人の切なる願いを受けて、神なる主が司祭という特別の役目を、司教を通して本人に与えるのです。

今、新司祭として一番やりたいことは、ミサをはじめ、ゆるしの秘跡や病者の塗油などの秘跡を通して、多くの人々と主イエス・キリストとの出会いを助けることです。また多くの外国人のためにも司牧をしてみたいと思います。

皆様方にはこれから司牧の中に、様々なことでお世話になつたり、迷惑をかけることがあるかと思いますが、一日も早く、一人前の司祭になれるよう働きたいと思います。

司祭になつたばかりですが、分からぬことが沢山あると思います。どうぞいろいろ教えていただければ幸いです。そしていつも温かくお見守つてくださいますようお願い申し上げます。





家庭的な雰囲気の中で

アシジのフランシスコ 高山 徹助祭

お蔭様で、このたび助祭として叙階されました！心より感謝申し上げます。7年間ずっと、この教区の司祭候補として育てて頂き、この秘跡に与りました。一緒に（ケンカもしながら）歩んできたヨセフ新司祭と共に助祭叙階を受けることが出来たのも大きな喜びでした。教区内各地からご参列下さり、また多くの皆さんがあわただしく、叙階式の運営にご尽力下さい、誠にありがとうございました。教区外からの方も合わせますと、約600名の参列者数と伺っております。叙階式の一週間前に、当初の予想を超える参列者数が推計され、驚きながらスタッフの皆様が準備して下さいました。

当日は、アットホームな雰囲気だったと多くの人が感じられたと伺っております。私の友達、家族・親族、恩人の皆さんも、そのように感じたようです。

また私自身も、この家庭的な雰囲気の中で、力づけられ、また励まされた思いが致しました。司教様の前での種々の宣言は、少々緊張しながら力一杯お応え致しました。祝賀会も家庭的で、後半は徐々にお帰り頂く方もおられながら、最後まで良い雰囲気でした。

助祭叙階に与り、早速未洗者の親族や恩人、そして赤ちゃんに祝福をしました。嬉しく思いながらも、とても緊張しました。まだ準秘跡や助祭奉仕をすることに恐れを頂きますが、引き続き神学校の助祭コース等を通して学び、喜んで奉仕の体験を積ませて頂こうと思っております。引き続きお祈り下さい。本当にありがとうございます！



